



学びの広場

詳しくは、市のホームページをご覧ください。

高校生を対象にした写真コンクールを開催します。季節の写真や街の風景、隠れスポットなど、北秋田市の魅力が詰まった写真をお待ちしています。

問 申 生涯学習係 ☎ 62・1130

北秋田市高校生協働地域活性化事業
写真コンクールを開催

定員 20人(要予約) 参加費 無料

日時 2月20日(水)

会場 合川公民館

講師 佐藤絵里さん

◆はじめてのアンガーマネジメント
怒らない伝え方

合川公民館定期講座
「子育てママ応援塾」受講生募集

問 申 合川公民館 ☎ 78・2114

日時 2月27日(水)

会場 合川公民館

◆樺細工のルーツは合川にあり！

問 申 合川公民館 ☎ 78・2114

日時 2月27日(水)

会場 合川公民館

講師 三浦欽一さん 参加費 無料

※申し込みは不要です。

問 申 生涯学習係 ☎ 62・1130

◆オープン不要！おうちで簡単パン作り

問 申 生涯学習係 ☎ 62・1130

日時 ①2月5日(火) ②12日(火)

会場 市民ふれあいプラザ

講師 小山久美さん

参加費 各回1500円(材料費)

定員 各回20人(親子での参加も可)

申込締切 各回3日前まで

※託児利用の方は、ねまーる広場(84・8560)へ申し込みをお願いします。(1歳以上、先着6人)

自宅に古文書が眠っていませんか？

問 申 文化係 ☎ 62・6618

北秋田市では地域の歴史を明らかにするため、古文書の保存・調査研究を進めています。そこで、各家々に伝わる貴重な古文書について、情報提供をお願いします。

古文書で「何が書いてあるかわからない」「いつのものかわからない」ものがありましたら、ご連絡ください。また、古文書の処分を考えている場合も、北秋田市が保管しますの

で、ご連絡をお願いします。

古文書は地域の歴史を考える上で、重要な文化財です。蔵や押入れの中などを確認してみてください。



- 公民館活動
- 生涯学習
- 文化振興
- 学校
- スポーツ

～地域で学び、活動する皆さんを応援します～

北秋田市教育委員会



学びの広場



心はぐくむ絵本読み聞かせ

～合川公民館「子育てママ応援塾」～

合川公民館定期講座「子育てママ応援塾」が、12月19日に合川公民館で行われ、6組12人の親子が参加しました。

この講座は「子育て中だからこそ、学べる・体験できる」というコンセプトのもと、毎月テーマを変えて開催しています。

この日は「心はぐくむ絵本読み聞かせ」と題し、読み聞かせボランティア「おはなしピッコロ」の関芳子さんと田中由美子さんを講師に、絵本の読み聞かせのほか、絵本を通して心のはぐくみ方を学びま

した。また、参加した子どもたちには、折り紙で作られたサンタとリースがお土産に手渡されました。



▲親子のふれあい遊びを楽しむ参加者

校訓は「明るく・楽しく・元気よく！」

～冬の笑楽校2019×大人と子どものサポートDAY～
今回で9回目となる「冬の笑楽校」が、1月9日に市民ふれあいプラザで行われ、北秋田市と上小阿仁村の小学生40人が参加しました。

この日は、AAREAの小林孝生さんから木の名前や種類を学びながら、自分だけのペンダント作りに挑戦したほか、上小阿仁村生涯学習奨励員の大城戸ツヤ子さんを講師に「カレーきりたんぼ鍋風」作り、北秋田警察署と連携した「鑑識体験」、音楽に合わせて体を動かす「ミュージックケア」を体験しました。参加した児童からは「ペンダント作りが面白かつ

た」「ミュージックケアが楽しかった」などの声があり、地域と学校の枠を超えて授業を楽しみました。



▲見て、触って、木の感触を楽しむ

地域の子どもの育成のために

～学校・家庭・地域連携協働活動推進研修会～

「学校・家庭・地域連携協働活動推進研修会」が、1月12日に北秋田市交流センターと阿仁公民館の2会場で行われ、特定非営利法人スクール・アドバイス・ネットワークの生重幸恵理事長が「次代を担う子どもたちの育成を～他人ごとにならない世の中へ」をテーマに講演を行いました。

この日は、地域コーディネーターや市内外の学校関係者、行政職員などが参加し、他県で行われている地域課題の解決に向けた取り組みを学びました。参加者からは「学校と地域の間にある壁を取り除

くヒントをもらうことができ、大変よい機会になった」などと感想が述べられました。



▲交流センターでの講演には20人が参加

未来・紡ぎ人⑨

このコーナーでは、地域の未来を時間をかけてつくりあげている(紡ぐ)方々を紹介しています。

○葛黒火まつりかまくら保存会
会長 堀部栄一さん(七日市)



木の立ち上げを指示する
堀部会長

◇どのようなお祭りですか

七日市葛黒地区に伝わる小正月行事「葛黒火まつりかまくら」は江戸時代の宝暦年間に始まったと言われており、約270年の歴史があります。火まつりかまくらは、切り出した栗の木に稲わらや豆殻をくくりつけ御神木とし、みんなの力で立ち上げ、火を点けて、御神木に向かってみんなで「おーい、かまくらの権五郎」と叫び、無病

息災を祈願するお祭りです。

平成11年に人手不足のほか、稲刈りの機械化や畜産農家がいなくなったことで、まつりに必要な稲わらの確保が難しくなったことなどが原因で一度途絶えましたが、平成26年に七日市の「おさるべ元氣くらぶ」の後押しで復活することができました。

◇どのような活動をしていますか

葛黒集落は最盛期には48戸が生活していましたが、現在は22戸。人手が必要なこの行事は、集落の人だけでは維持できません。そのため、参加型の行事としてボランティアを募集することにより毎年開催できるようになりました。

課題だった稲わらは市内外の農家にご協力いただき、三反歩の量を確保してもらっています。さらに、3年前にはこの行事を後世に伝えるために保存会を結成しました。現在約15人で活動しています。

◇葛黒火まつりかまくらのPRを

御神木を立てた時と、火を点けた瞬間は壮観で、葛黒でしか見ることでないものです。今年は2月17日に開催します。16時頃に御神木を立ち上げ、18時に点火します。ぜひ葛黒にお越しください。